

## 第 4 回 全 体 会 議 事 録

実施日時	平成 21 年 12 月 24 日 (木) 13:30 ~ 16:15
場 所	福井商工会議所 特別会議室
出席者 (敬称略)	(会長) 菊沢 正裕 (副会長) 中野 佐知子
	(委員) 有賀 祥夫、井上 博行、井上 義一、岩本 拓馬、梅田 徳美、桶谷 治寛、 島田 行雄、堤端 充、野村 昭一、宮腰 忠寛、山本 靖夫、吉川 守秋 (計 14 名)
	(見学) 渡辺 真江 (ダンボールコンポストネットワーク所属) ※FEPS 委員として参加希望
	(事務局) 河野副課長、宮越、辻
議 題	<p><b>1 報告事項</b></p> <p>(1) 環境大臣表彰を受賞</p> <p>(2) 福井市環境展</p> <p>(3) 福井市環境基本計画検討委員会の報告</p> <p>(4) プロジェクトの活動報告</p> <p><b>2 審議・協議・意見交換</b> ※当日次第とは順番変更</p> <p>(1) 福井市環境パートナーシップ会議設置要綱の改正</p> <p>(2) 新委員就任について</p> <p>(3) プロジェクトの継続について</p> <p>(4) 環境基本計画 平成 20 年度報告に対する意見集約</p> <p><b>3 その他</b> ※全体会終了後</p> <p>(1) 学校訪問の参加者への説明会</p>
進行及び 要 旨	<p><b>報告</b></p> <p>(1) 環境大臣表彰を受賞 ○これまで FEPS に携わってきた多くの皆様のお陰で受賞できた。これを励みに、これからも活動を進めていきましょう。</p> <p>(2) 福井市環境展 ○FEPS の P J のセミナーなど、これまでの環境展には無かった企画を実施できた。しかし、改善点 (開催時期、場所、内容等) もあるので、来年の全体会で議論していきたい。 ⇒県の環境フェアや市の消費者まつりなど、内容が似通っているイベントが 10 月と 11 月に別々に開催されるので、一元化を図ってはどうか？ ⇒また、上記のように似通った時期ならば、開催時期を検討してもよい。</p> <p>(3) 福井市環境基本計画検討委員会の報告 22 年の計画案作成に向けて、骨子案を作成中。 計画書の構成から推進体制についてまで、幅広く議論している。</p> <p>(4) プロジェクトの活動報告 ※次第のとおり</p> <p><b>審議・協議</b> ※当日次第とは順番変更</p> <p>(1) 福井市環境パートナーシップ会議設置要綱の改正 ○前回の全体会にて、エコカレ卒業生が FEPS 委員となることに対し門戸を開くとの決定があったので、今回の要綱改正を提案した。 ・委員の上限人数は、以前は 35 名以下であったが、現在の要綱では規程がない。委員人数は、多ければよいものではない。多すぎるとまとまりにくいという弊害が生じる。今回再度、上限を設けてはどうか？</p>

- ・委員構成に偏りが生じてこないか？
- ⇒現在の組織体制に至るまでに、会の構成に係る規制を減らし、実際活動する人が活動しやすいように環境を整えてきた経緯がある。
- ⇒例えば、基本計画の点検のような場合には、専門家の目線は必要である。
- ⇒基本計画の点検に関しては、「環境審議会」という専門家からなるそしきがあり点検している。FEPSは、市民の目線で計画を点検してほしい。
- ・途中から委員になった者の任期はいつまでか、明記が必要では？
- 他の委員が任期を迎える次回改選期までと考えている。異存なければ、その旨を明記する。委員の上限に関しても、再度記載する。

## (2) 新委員就任について

○渡辺真江さんという、ダンボールコンポストや食育に取り組んでいる方が、FEPS 委員になり活動したいということで、今回見学に来られました。

(渡辺さん、自己紹介)

- ・委員になっていただいて、よいと思います。

○それでは、次回、3月の全体会から FEPS 委員として参加していただきます。

## (3) プロジェクトの継続について ※便宜上、実際の発言順を変更しています

### ①環境教育ネットワークPJ

・芦見での自然体験学習を中止する。理由は、草刈等の管理が行き届かない。実際に、今年度は動物に作物を食べられ全滅した。また、地元との連携も思うようにすすまなかった。その他のセミナーは、21年度の事業を継続する。

### ②福井2050PJ

・今年度に作成したシナリオを公開講座等で得た意見を基に充実させる。特に、来年度は、他地域の活動団体と交流していきたいと考えている。

⇒本PJでは、2050年までに80%削減を掲げているが、政府は2020年までに25%削減を掲げている。整合性を検証しては。

⇒本PJの目標の途中過程に、政府目標は位置しており、差はあまりない。

⇒2050年が目標だと、せっかくのシナリオも身近に感じられない。

⇒来年度以降、2050年までの実現過程をロードマップとして作成する上で、身近に感じられるように工夫していく。

・これからのPJの課題(PJ活動前進のポイント)は、シナリオの行政計画への盛り込みと考えるが、市はどのように考えているのか？

→すぐに取り入れられる物ではないので、基本計画改定等もあるので、精査していきたい。

・作成したシナリオを中間報告という形でPRしていてもよいと思う。

### ③みどりのカーテンPJ

・来年度も公民館を通じて普及していきたい。

⇒FEPS 以外にも、みどりのカーテンに取り組む団体があるので、連携をしていく必要があるのでは？

・各団体とも力を入れているポイントが違うので、役割分担や棲み分けなどをして、連携できるところは連携していく。

### ④エコカレッジふくいPJ

・来年度の主な変更点は、下記のとおり。

4コースから3コースに絞り、余裕をもった体制にする。

コース共通の課目を設定し、コースの枠を超えて受講生を結びつける。

## (4) 環境基本計画 平成20年度報告に対する意見集約 ※別紙のとおり

・基本計画の検討委員会の中で、計画推進への積極性がでてきているので、来年度に何か新たな事業をしてはどうか。